





庁内ポータルサイト:職員が業務目的別にマップにアクセスし簡単に利用することができる

プラットフォームの選定にあたり自治体GIS利用支援プログラムを利用することにより十分にArcGISの機能を評価する事ができた。

またGISプラットフォームに使用するソフトウェアのライセンスにArcGIS自治体サイトライセンスを採用したことにより、コストを抑えて庁内GISプラットフォームの構築が可能になり、全職員のPCにArcGISをインストールすることもできた。

## ■導入手法

庁内には「住民へ情報をどのように公開するか」、「部署間の情報連携をどう実現するか」という2つの課題があったがArcGIS Onlineを軸にプラットフォームを構築することにより解決の目処が立った。

ArcGIS Onlineのアプリケーションを使用することで活用シーンに合わせた様々なマップを公開している。また、ArcGIS Onlineと庁内サーバー(ArcGIS for Server)をURL連携させることで、機密性の高い情報は庁内のサーバーで管理する事が可能になり、セキュリティをより強化して利用できる仕組みを実現した。

部署間の情報連携にもArcGIS Onlineを使い、庁内向けのGISポータルサイトを構築した。GISポータルサイトから、地理空間情報を含む行政情報を見ることができるようになり、GISの専門知識を持たない職員もまずはここから情報を簡単に閲覧し、共有することが可能になっている。



「しすいマップ」

## ■導入効果

### ●しすいマップ

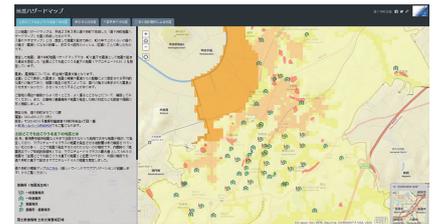
住民の安全安心のために公開している「しすいマップ」は、酒々井町ウェブサイトのトップページにバナーを設置して、ウェブサイトに訪れた人が素早くアクセスできるように工夫をしている。

緊急時に役立つハザードマップは、地震ハザードマップと洪水ハザードマップがある。地震ハザードマップは、想定される4つの地震別(直下型地震・東京湾北部地震・千葉県東方沖地震・三浦半島断層群の地震)震度予測や避難場所の案内等を表示して、防災情報の一元化と配信を行っている。

平常時に利用できるマップには、「バス停と周辺施設マップ」「グルメマップ」、観光の要素を含んだ「酒々井町 推奨品マップ」がある。推奨品マップとは、酒々井町商工会が発行したパンフレットを元に作成されたもので、酒々井町ならではの名品の数々を販売場所の地図付きで紹介している。まさに、酒々井町に住む人・来る人を楽しんでもらえる情報が満載のマップに仕上がっている。

### ●庁内GISポータル

庁内GISポータルでは、職員が地震ハザードマップや洪水ハザードマップ、酒々井町の推奨品マップ等の業務目的別のマップにアクセスして簡単に利用できるように、ワンストップサービスを提供している。業務でマップを使用したいときには、この庁内GISポータルを入口に様々なマップやアプリをいつでも利用できるようになっている。



地震ハザードマップ



グルメマップ酒々井



洪水ハザードマップ: 標高マップ

## ■今後の展望

GISが使えるプラットフォームは整ったので、今後はこのプラットフォームを活用して、さらなる利用者の拡大と、各課業務の情報共有化、業務の効率化、コスト削減を目指していく。

利用者の拡大では、既に実施済みの職員向けオンサイトトレーニングを今後も継続して行っていく予定である。導入年度では空き家調査等の業務利用に沿ったトレーニングを行った。

トレーニングに参加したメンバーを中心にGIS推進部会(ワーキンググループ)を発足し、これまでGISを知らなかった職員もさらに巻き込んだArcGISの勉強会を予定している。「できるだけ多くの職員にGISに関心を持ってもらいたい」と岡野氏は考えている。GIS活用の底上げを行うために、システムの導入に関わった(株)創源も加わり、ArcGIS for Desktopも使用して地域特性の可視化や分析を行い、施策検討に活用していきたいと考えている。また、しすいマップも最新のハザードマップやグルメマップ、古地図の公開など、住民サービスの向上につながるように公開マップの追加を予定している。

今後は、導入したばかりのArcGIS自治体サイトライセンスを最大限に活用していく。